

深い学びにつながる3つの視点

意図的な計画

久御山学園における効果的な実践例

一人で  
挑戦させる！

適切な支援を行いながら、多様な考えで表現することを徹底させる。

- ・教師が子どもに「何を」「どこまで」考えさせたいかを明確にもつ。
- ・ヒントカードや視覚支援などの活用を行い、自分の意見を持たせる。



個



一人学び用の学習プリントやヒントカードなどを活用することによって、子どもたちが自分の考えを明確にし、その後の協定・交流へとつなげていきます。

仲間と  
追究させる！

ペアやグループで話し合う場面では、明確な目的を設定する。

- ・一人学びで持った自分の意見から学びを広げる。
- ・意図的なペア・グループなど目的に応じた活動形態をとることで、よりよい考え方に気づかせる。



交流

- ＜活動のねらいを持つ＞
- ＜品詞解を探る＞
- ＜多様な考え方を知る＞
- ＜自分の考えを整理する＞



＜グループで交流のメリット＞

- ・自分とは異なる考え方を知る。
- ・グループで説明することにより、自分の考えが深まる。
- ・グループ内で承認されることで自信が持てる。

＜ペア活動のメリット＞

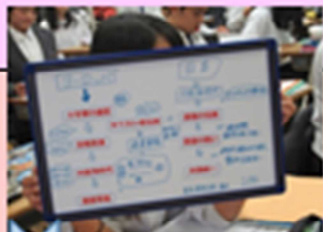
- ・反復練習がしやすい（英語科等）
- ・交流する相手が明確であり、活動のねらいをだてやすい。
- ・効率よく交流でき、授業に組み込みやすい。



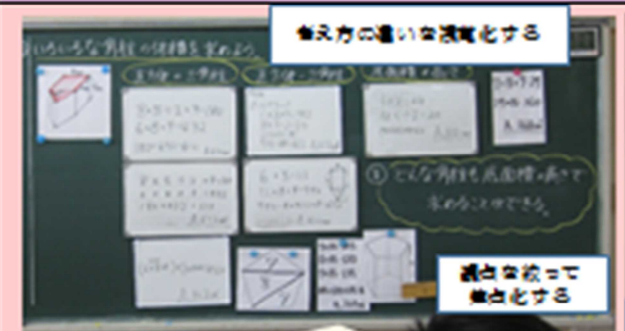
交流で  
さらに  
深めさせる！

意見を焦点化し、全体で考えを深めたり、表現させていく。

- ・交流の中で分かったことの中から、より視点を絞って学びを深めていく。
- ・より豊潤なものを見つけていく。



深化表現



考え方の違いを顕微鏡にする

視点を変えて見かたにする

単元計画と合わせて明確に共有化する

全体で交流する場面では、考え方の違いを明確にししたり、2つの考え方に限定したりして、何について考えるのかが焦点化します。その際、本時のねらいを子どもたちがしっかりと踏んでおくこと、より視点を絞り込んだ様々な活動が展開されず、一人学びでの考えから、考えが理解できたり（あっ、そうか！）、より深く理解したり（なるほど！）、新しい考えを構築（それもいいなあ！）する時間を目標しましょう。